

地域に学ぶ健康な環境づくり(バス見学)

～越谷市・ゴミも資源のうち、その処理現場～



武蔵丘短期大学 健康生活科
一般教育
教授 富永裕之

このたびの本学公開講座は、「健やかで、はつらつとした日々を過ごし、健康な生活づくりに、一人ひとりが、そのおかれた環境のなかで、それぞれの個性に応じて取り組み、いかにして理想的な健康生活を実現したらよいか」を基にしております。

公開講座は本学校舎内での学習だけでなく、共に健康な環境づくりに「いかに地球にやさしいか」の認識で、今回は「ゴミは全て資源に、埋め立てゼロをめざす」県内越谷市のゴミ資源処理の実態を共に視察し、学習することとしました。

視察するにあたり、とくに越谷市のゴミ処理の流れ等に関し、参考までに資料の一部を次のように示しておきます。なお、資料内容は越谷市環境部環境整備課より提供していただいたものです。

なお、今回の見学先は、午前中に不燃物処理資源化施設である「越谷市資源化センター」を見学し、午後はゴミを燃料とした「火力発電所」をそれぞれ見学する予定としております。

もくじ

ゴミ……その現状は	1
ゴミ……その問題は	2
ゴミ……その処理は	4
地球に育まれている私たち	6
ゴミ……その減量は	8
ゴミ……その分別と出し方	10
これからの私たち	13

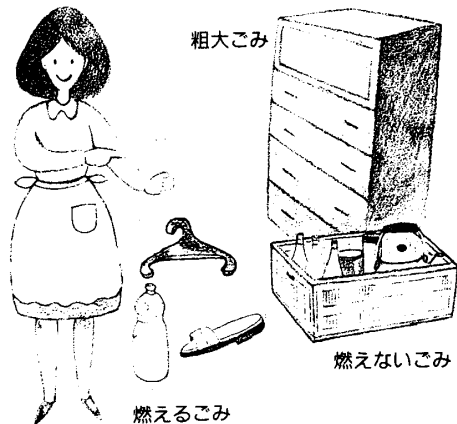
ゴミその現状は

あなたは自分が一日にどのくらいの量のゴミを捨てているか、考えてみたことがありますか。

市内の家庭から出され、市が処理をしているゴミは、一年間で約7万9500t(平成5年度)になっています。

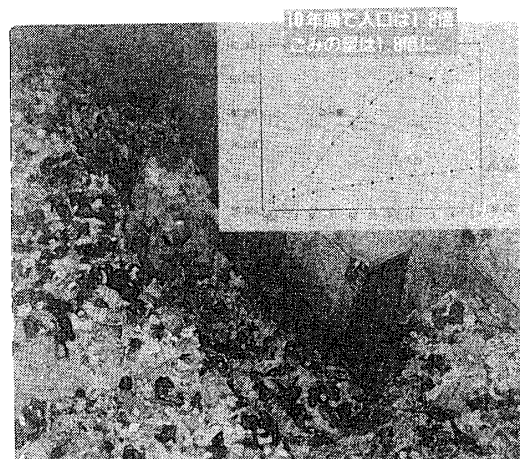
これを市民一人当たりに換算すると一日約740g、年間で約270kgを超えるゴミを捨てている計算になります。4人家族では1tを優に超えるわけです。

そのほかに、市内のいろいろな事業所から出されたゴミも合わせると9万2800tにもものぼります。



越谷市は3大分別!!

プラスチック類は燃えるゴミとして処理しています



持ち込まれたゴミが投入されるピット(埼玉県東部清掃組合)

ごみその問題は

ごみは毎日休むことなく出し続けられています。

生活をより豊かにという人々の願いは、大量生産と大量消費の使い捨ての経済社会を築くことになり、人々のものに対する意識も変わりました。今や私たちのまわりにはものがあふれています。そして、便利さという快適性の代償として、ごみの量も急激に増え、その内容も複雑多様化しています。

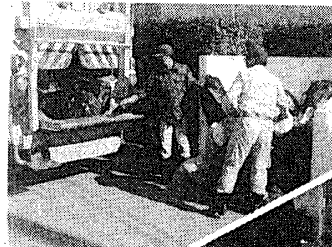
平成5年度、越谷市がごみ処理に費やした経費は28億円を超え、市の一般会計695億円の4%にもなります。

ごみ1tを処理するのに約3万700円の費用をかけた計算になります。これは市民一人当たり約9700円の税金が使われたことに相当します。つまり、買ったものをごみに出し、お金を払って処理していることになるのです。

市民生活の安全性・利便性・快適性を確保するために行わなければならないことはたくさんあります。このままごみの量が増え続けて行くと処理経費はますます増大し、その分ほかの事業に回す費用を削らなければなりません。



ごみの経費は	
4人家族で1年に	1tを超える
1t処理するのに	約3万700円
1日に使われる処理費用	市内全域で 約780万円
1年で	約28億5200万円
市民1人当たり年間	約9700円



収集作業
市内に約3800カ所のごみステーション

燃えないごみが搬入される資源化センターかご回収により燃えるものの混入が減りましたが、中には明らかに燃えるごみも

粗選別作業



ごみは出してしまえば家庭からは消えてきれいになりますが、現在のところどんな処理を行っても残渣(ざんさ)が出てしまうので、埋め立て処分をしなければなりません。

越谷市では埋め立て物質ゼロをめざして、調査研究を行いながら適正な処理・処分体制の整備を図っていますが、市や県の最終処分場に持ち込める量は限られています。近年のごみ増加によって、埋め立て残余年数が圧迫されているのが現状です。

私たちが出したごみを関係のない遠くの人たちに押しつけることは許されるはずがありません。目の前から消えればいいというわけにはいかないのです。

私たちが暮らしていく中で必ず発生するごみ。

いちばん身近な問題として一人ひとりが真剣に考えていかなければならない時が来ているのです。

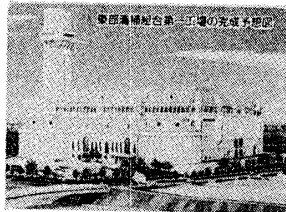
ごみその処理は

ごみのうち燃えるものは、近隣の4市2町で構成している埼玉県東部清掃組合の工場で燃やしています。

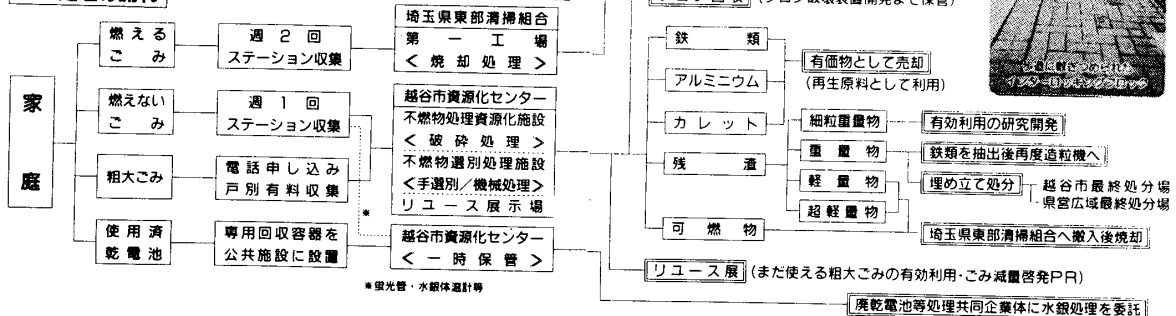
燃やしたごみの灰はより高温で溶かして、ガラス状の小さな粒(スラグ)にし、インターロッキングブロック(敷石)などの製品にして、緑道の歩道や公共施設の庭などで利用するなど、最終処分場に埋め立てる量を少しでも減らす工夫をしています。

また、ごみ焼却の際に発生する熱エネルギーを電気エネルギーに変え(火力発電)売電し、さらに発電後の余熱エネルギーについても温水プールや温室、公共施設などの冷暖房に活用しています。

現在、増改築中の第一工場が完成すると日本でも有数なごみを燃料とした火力発電所に生まれ変わります。(平成7年秋稼働予定)



ごみ処理の流れ



*蛍光灯・水銀体温計等



地球に育まれている私たち

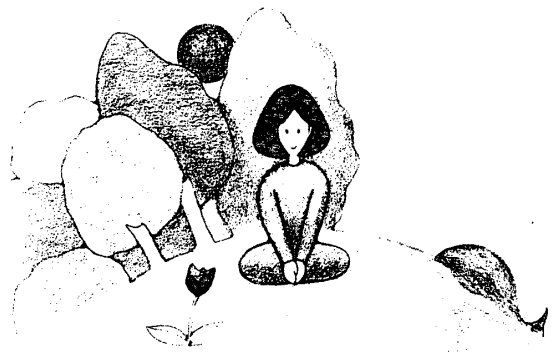
かつて私たちはあまりごみを作らない暮らし方をしていました。限られたものを大切に使い、なるべく捨てることなく、「生かして使う、直して使う」知恵を培ってきました。また「もったいない」という言葉もごく当たり前のこのように感じていました。

私たちが暮らしの中で何気なく使っているものは、すべて地球上の貴重な資源からつくられています。言うまでもなく、資源は私たち人類全員が共有して大切にしなければならない限りある財産です。

にもかかわらず、私たちの暮らしには、あたかも資源が有限であることを忘れたかのように次から次へと新製品が作り出され、なかには一度も使われることのないまま捨てられてしまうものもあります。

大量生産と大量消費、使い捨てのライフスタイルが、私たちのものに対する意識をすっかり変えてしまい、不要となればごみとして捨てるのが当たり前のこのようになってきました。

このようなライフスタイルは、資源を無駄にし、ごみを増やすという二重の環境破壊の上に成り立っているのです。



地球は現在、熱帯林の破壊、温暖化、酸性雨、オゾン層の破壊、砂漠化、海洋汚染などによって、その環境が危機にさらされています。これらの環境問題やごみ問題をそのままにしておけば、最終的に私たちや私たちの子孫が生活する環境を悪化させることとなります。

先人から受け継いだ豊かな地球環境を破壊することなく、次代に引き継ぐことは、私たちの責務でもあります。私たちは地球環境を守り、貴重な資源を有効に使わなければなりません。

私たちにできることは、暮らしの中のごみを減らし、資源をできるだけ再利用し、地球にやさしいライフスタイルに変えていくことです。

真に豊かな暮らしとは、ごみが少ない社会で作られるものと言えるのではないのでしょうか。



ごみその減量は

ごみの中身をよく調べてみると、まだ十分に使えるものが少なくありませんし、回収すれば資源化が可能なものも相当含まれています。私たちの努力次第では、ごみはもっと大幅に減らすことができるのです。

ごみが減るといことは、焼却処理のときに発生する二酸化炭素や各種大気汚染物質の減少につながり、また確保するのが困難な埋め立て地の寿命も長くなります。しかも、貴重な税金で賄われている処理費用も節約できるのです。

清潔で住みよいまちづくりのためにも、限られた資源を有効に利用するという意味でも、一人ひとりがごみの出し方について再点検してみたいものです。

私たちにできること

● 使い捨て商品をなるべく買わない



● 集団回収など、リサイクルを進める地域の活動に積極的に参加する



● 使えるものをすぐ捨てるのではなく、修理や部品交換して、長持ちさせる



● 過剰包装は断る 買物袋を再利用する

● できるだけ再生品を暮らしの中に取り入れる



● まだ使えるが不用品となったものは、不用品の交換会に出したり、他人に譲る



まず、ごみとして出す前に、まだ使えるものが含まれていないか、資源として利用できるものはないかをもう一度考えてみてください。あなたにとってごみにしか見えないものでも、見方を変えると立派に活用できるものかも知れません。不用品の交換会などに参加して、有効に生かそうではありませんか。

次に、ごみの出し方は自治体によってそれぞれ異なりますが、越谷市では「燃えるごみ」「燃えないごみ」「粗大ごみ」の3大分別をお願いします。

これは、ごみを処理する際の効率を考えて分けられているもので、この分別を確実にし、決められた日時と場所に出すことを守っていただくことが基本です。

越谷市では、ペットボトルやトレーなどのプラスチックやビニール、発泡スチロールなどは燃えるごみとして扱っています。

また、金属など燃えないものと燃えるものと複合したごみは、簡単に分けられるものは分けて（ペットボトルの金属キャップは燃えないごみに）、どうしても分けられないものは、燃えないごみとしてお出しください。

新聞紙、雑誌、段ボール、古着などはどれも大切な資源として再利用できます。燃えるごみとして出さずにお近くで行われている集団資源回収にお出しください。

空き缶や空きびん類も資源回収されています。ご協力を！

「これはごみだろうか」と自問したり、ものを買う際に「本当に必要だろうか」と考えるだけでも、ごみの減量につながります。

ごみその分別と出し方

- ◎ごみ収集指定日の曜日時まで、決められたごみステーションへ
- ◎収集指定日が祝日の場合は、ごみの収集も原則として休みます
- ◎ごみステーションはいつも清潔に

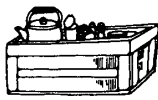
燃えるごみ



- 台所のごみ ● 再生できない紙くず ● ビニール製品
- プラスチック製品 ● 発泡スチロール
- コム製品 ● 皮革製品
- 小さな木製品 ● 樹木の枝・木切れ
- 布・綿くず ● 生花 ● 庭の落ち葉・草
- 掃除機のちり ● たばこの吸い殻
- 紙オムツ ● 生理用品
- 布・カーペット・じゅうたんなど切れは小さくなるもの

- 生ごみは水分をよく切り、袋に入れて口を結んでから
- 食用油は新聞紙等に吸わせてから
- ペットボトルなどのプラスチック類は燃えるごみとして
- 金属が付いているものは金属を外してから(ペットボトルの金属キャップなど)
- 小枝、板切れは長さ30cmぐらいにして、太いものは粗大ごみに
- 布団、カーペット、じゅうたんなどはハサミやカッターで切って、小さくして
- 紙オムツなどは汚物を取り除いてから
- ☆新聞、雑誌、段ボール、衣類、布類はお近くの集団資源回収活動に

燃えないごみ



- 陶磁器類(食器・花瓶・植木鉢など)
- 金属製品(なべ・やかん・一斗缶など)
- 再生できないガラス類(鏡・板ガラス・コップ・化粧品品のびん・クリスタル・耐熱ガラス・レンズなど)
- 小型家電製品 ● 小型スチール家具
- 可燃物と金属が複雑に混じり合ったもの ● 白熱電球
- 蛍光灯・水銀体温計
- 空き缶 ● 空きびん

- ごみステーションに置かれるかごに入れて下さい。
- 刃物や針、割れたガラスなど危険なものは空き缶などに入れ、内容を明示して
- 蛍光管や水銀体温計は透明の袋などに入れて中身がわかるように
- スプレー缶は火気に注意して穴をあけてから
- 乾電池を使っているものは乾電池を抜いてから
- 乾電池は公共施設等の専用回収ボックスへ
- ビールびん、酒びんなどのリターンブルびんは購入した酒屋へ
- 空き缶、空きびん類はお近くの集団資源回収活動に

粗大ごみ



- 家電製品 ● 家具・什器類 ● 自転車 ● ベビーカー
- 石油ストーブ ● タイヤ ● バッテリー
- ガラス戸・障子・襦 ● スプリング入りマットレス
- トタン ● その他50cmを超える大きさのもの

- 戸別有料収集を行います
- 電話で環境整備課に申し込みを
- 申し込み専用電話 63-5300 (ゴミゼロゼロ) へ
- 家電製品、家具等の買い替えの場合はお店に引き取り依頼を

市では収集しないもの



- プロパンガスボンベ ● 消火器 ● バイク
- 農薬・殺虫剤・漂白剤・塗料等液体
- ガソリン・灯油・自動車オイル等の廃油
- コンクリート・ブロック・レンガ等
- 土砂・多量の灰 ● 大型木材 ● 畳 ● ピアノ
- 引越しや家の増改築に伴う一時多量ごみ
- 事業系一般廃棄物 ● 産業廃棄物

- 販売店に引き取ってもらうか、処理業者に依頼を
- 処理の依頼をする場合は市の許可業者を
- 処理業者などに関するお問い合わせは環境整備課へ

◎ちょっとした心づかいで快適なまちづくり



10

11

これからの私たち

◆集団資源回収にご協力ください

市内の自治会や子ども会では集団資源回収活動を行っているところが数多くあります。

お近くの活動団体とともに、新聞、雑誌、段ボール、布類、空き缶、空きびんなどの資源物をリサイクルしてみませんか。

活動の輪が広がることにより、資源の有効的な再利用が進み、家庭でのごみの減量につながります。また、地域コミュニティの形成、人と人のふれあいが広がります。

市では実績に応じて奨励補助金を団体に交付し、さらなる活動の資金として有効に利用していただいています。

*「集団資源回収」および「資源回収奨励補助金」について
→ 環境整備課 ☎ 64-2111

◆不用品の有効活用をお願いします

「まだ十分に使えるものを捨てるのはもったいない」と思っている方はたくさんいらっしゃると思います。

不用品を再活用して下さる人を捜すためには、

- 身近な人に声をかけること
 - 「リサイクル情報誌」や「不用品の登録制度」を活用すること
 - 「リサイクル市」や「エコバザール」に参加すること
 - 市内の「リサイクルショップ」に相談すること
- などいろいろな方法があります。ぜひお試しください。



* 「リサイクル情報誌」および「リサイクル市」について
→ 千間台リサイクル運動市民の会 ☎ 75-1919

* 「不用品の登録制度」および「リユースフェア」について
→ 消費生活センター ☎ 65-8886

* 「エコバザール」について → 環境保全課 ☎ 64-2111

* 「使用可能な粗大ごみ」の有効活用について
→ 環境整備課 ☎ 64-2111

* 「粗大ごみ」の申し込みは → 環境整備課 ☎ 63-5300

ごみ問題は、私たち一人ひとりの問題であると同時に地球全体の問題なのです。

一人ひとりの行動の積み重ねが、地球そのものに多大な影響を与えることを自覚し、地球にやさしいライフスタイルを常に心掛けてください。

そのうえで、今後は経済社会のシステムの重要なプロセス、生産・流通・消費・処理・処分のすべての過程でごみ減量に取り組んでいかなければなりません。

そのためには

Reduce	ごみになるものを家に持ち込まない(買わない)
Reuse	まだ使えるものは有効に活用する
Recycle	捨てても捨てたものは資源として再生する

の3つの言葉をすべての人々が常に念頭に置き、各々の日常生活を見直しながら、ごみの発生抑制とリサイクルを進めていくことが重要です。

その結果、利便性と快適さの一部を犠牲にしなければならないかもしれません。

しかし、自然や環境と「共に生きる」私たちにとって、守らなければならない地球のことを考えることは、より大切なことではないでしょうか。

ひとりひとりがごみ減量

減らそうごみ 生かそう資源

12

13